

摂津市議会

駅前等再開発特別委員会記録

平成30年10月26日

(決算委員会、健都・JR千里丘駅前再開発、阪急京都線連続立体交差事業質疑抜粋)

～略～

○藤浦雅彦委員長ほかにございますか。

松本委員。

○松本暁彦委員

おはようございます。

それでは、質問をさせていただきます。まず1点目が、決算概要96ページの北大阪健康医療都市ポータルサイト運営負担金について、その内容と、その状況についてお聞かせください。

続きまして2点目が、決算概要108ページの健都イノベーションパーク企業立地推進事業についてですけれども、先ほど榎村委員からの質疑に対する答弁で詳細にお聞かせをいただきました。ある程度概要については理解をいたしました。

そこで改めて、平成29年度は国立循環器病研究センターについて吹田市と具体的にどのような形で協議というのをされているのかお聞かせください。

続きまして、3点目、阪急京都線連続立体交差事業についてですけれども、平成30年2月28日で都市計画事業認可をされたというところで、こちらについては要望で終わらせていただきます。

やはり会派としても、これは南北の開かずの踏切を解消して、庄屋地区あるいは、その周辺のよりよい交通状況を確保するというところで、非常にすばらしい取り組みだと感じております。

そこで、しっかりと円滑に進めていただくように、特にやはり、地権者への説明会というところで、個別に対応することが必要になると思いますけれども、それぞれにしっかりと丁寧に対応して、早期の実現を目指していただきたいというところで要望させていただきます。以上です。

○藤浦雅彦委員長

それでは、答弁お願いします。

有場課長。

○有場保健福祉課長

それでは、私のほうから、北大阪健康医療都市ポータルサイト運営負担金についてのご質問にお答えいたします。

いわゆる健都のポータルサイトですが、この内容につきましては、健都の機能や各街区の説明であったりとか、市や国立循環器病研究センターのイベントの紹介というのが主な内容になっております。

このポータルサイトにつきましては、国立循環器病研究センターを中心に健康・医療をテーマとしたまちづくりに本市が参画していることを多くの市民に知っていただきまして、市域全体で健康づくりに取り組もうとする機運を醸成していくということが目的でございます。

このポータルサイトの最近の状況でございますが、来月には駅前複合商業施設がオープンし、また、12月には吹田市民病院の開院も控えております。それに伴いまして、ポータルサイトのアクセス数も、従前は20万前後ヒット数ぐらいで推移していたところ、この9月には30万ヒットを超えてきておりまして、非常に注目を集めているところでございます。以上でございます。

○藤浦雅彦委員長
大橋次長。

○大橋市長公室次長

そうしましたら、ご答弁申し上げます。

少し、先ほどの答弁の中、私の説明といたしますか、言い方が少しまじまじであったかもしれないけど、平成29年度に関しましては、健都イノベーションパーク、それと本市の6,000平米の部分についての具体的な中身の協議というのは、なかなかそれほど進んでいない状況でございました。

会議といたしましては、医療クラスター形成会議であったり、今、医療クラスター推進協議会におきまして、それぞれ府、吹田市、それと各機関ですね、いろいろ喧々諤々、議論はしておったんですけども、そのイノベーションパークにおける部分につきましては、吹田市が先行してニプロ株式会社の誘致に動いておられたということと、やはり国立健康・栄養研究所の移転方針が決まって、入居される建物をどうするかという部分が主な中心、平成29年度については主な中心議論であったというふうに思います。以上でございます。

○藤浦雅彦委員長
松本委員。

○松本暁彦委員

それでは、2回目の質問をさせていただきます。

北大阪健康医療都市ポータルサイト運営負担金について、内容については理解をいた

しました。ヒット数が30万を超え、非常に今、注目を浴びているというところを理解をしています。このホームページ内を確認すると、国立循環器病研究センターの取り組みにおいて、かるしおプロジェクト、コホート研究などが記載をされております。国立循環器病研究センターと摂津市の相互の連携・協力に関する基本協定書を締結や、健康・医療のまちづくり検討部会、さまざまな検討とさまざまな連携が具体的に記載されております。

そこで、平成29年度で本市において連携した取り組みがあるのかをお聞かせください。

続きまして、2点目の健都イノベーションパーク企業立地推進事業での、平成29年度の取り組みについては理解をいたしました。イノベーションパークというところは、ことし、議会等でも、あるいは、去年の12月議会でも確認をいたしました。本市の産業の活性化につながるというところで非常に意義があると。

特に、地域の経済活動を牽引できる医療クラスターの形成にふさわしい事業者を健都イノベーションパークに誘致することが産業の活性化につながるというところを答弁でも言われて、それについても同感だと思っております。

そこで、改めて、どのような企業がそれにふさわしいのか、イメージを持っておるのか、それについてお聞かせください。以上です。

○藤浦雅彦委員長

それでは答弁をお願いします。

川口部参事。

○川口保健福祉部参事

それでは、私から、国立循環器病研究センターとの連携事業についてお答えさせていただきます。

大きく分けると4点ございます。1点目は、特定健診でございます。これについては診察に医師の派遣をいただいております。2点目といたしましては、市民健康教室でございます。脳卒中、不整脈など、循環器系疾患を主なテーマといたしました健康教室への講師派遣をお願いしております。

また、本市の健康課題でもあります糖尿病の対策事業にも講師として来ていただく場合もございます。それ以外にも、プログラムを作成する際にアドバイスをいただいたり、調理実習のメニュー等のご助言等、そのような支援をいただいております。

また、これは、保健分野というより、消防本部との連携になりますが、救急の症例検討会を年に1回開催し、搬送事例について、ご指導いただいている状況でございます。

また、平成29年度につきましては、STOP-MIキャンペーンということで、心筋梗塞の前駆症状について、広く市民の方に知っていただき、心筋梗塞から生命を守る、そのような周知も図っております。それについては、チラシ作成へのアドバイス、また、実際に健康まつりや健康教室等幅広く講演をいただき、市民への周知の徹底に努

めているところでございます。以上です。

○藤浦雅彦委員長

大橋次長。

○大橋市長公室次長

そうしましたら、どのような企業がふさわしいと考えているかということについてご答弁申し上げます。

やはりあそこの核になる機関が国立循環器病研究センターと国立健康・栄養研究所でございますので、そこと一定、連携を協力、協働でさまざまな事業といいますか、そういったことができる、それが中長期で市民に少しでも還元されるような企業ということになるのかなというように思うんですけども、そういった意味でいいますと、医療の分野でいいますと、医療器具であったりというところ、それは、新たな器具の開発であったりというところに資するような企業、健康の分野であれば、国立健康・栄養研究所とさまざまな研究開発というか事業、分析等も含めて、そういったことをして、少しでも長寿命、健康寿命の延伸ですね、そういったところに資するような研究開発できる企業ということになるかなと思っております。

ただ、企業、最近では、持ち株会社等、グループをたくさん持たれてる企業もございまして、その中のどういった分野がそのエリア、健都イノベーションパークに来るかというところも考えていかなければなりませんので、そのあたりはなかなか難しい部分があるんですけども、今申し上げたような企業ができるだけ来ていただけるように努力はしていきたいというふうに思っております。以上でございます。

○藤浦雅彦委員長

松本委員。

○松本暁彦委員

それでは、3回目の質問をさせていただきます。

まず、平成29年度において、国立循環器病研究センターと連携をしているということについては理解をいたしました。特に、非常に支援をしていただいているということ認識をいたしました。

この健都というものは、イノベーションパークも含めてですけども、非常に複雑多岐な要素が入っていると思っております。そういった中で、先月の議会においても、健都を中心に健康づくりと医療イノベーションの好循環の創出による健康寿命の延伸をリードするまちづくりに向けてというところで、それぞれが有機的に組み合わさっていくことによって、初めて健都のまちづくりが成功するという、その認識をしております。

その中で、三つの意義、産業の活性化と健康寿命の延伸、そして、全国発信というところをそれぞれ意識をされて、今後、まちづくりに取り組んでいくという認識をしてお

ります。

それを踏まえて、改めて循環器病を初めとする生活習慣病の予防や健康づくりに関する先進モデル地域を目指すために、平成29年度の取り組みを踏まえて、どのように今後進めていくお考えがあるのか、それについてお聞かせをください。

続きまして、2番目の健都イノベーションパーク企業立地推進事業についてですが、市にとって、あるいは健都にとってふさわしい企業というもの、そういうものもしっかりとイメージをしているということで理解をいたしました。

これはやはり、10年、20年、30年後においてどのように、健都が成長して、なおかつ、その企業と連携をして、そして摂津市の産業の活性化につながるというのは、なかなか難しく、必ずしも一つのイメージとしてはつくりづらいのかと思っております。これについては、しっかりと検討していただきたいと。

その中で、このイノベーションパークの企業誘致にはどのような課題があるのか、どのように認識をされているのかお聞かせください。以上です。

○藤浦雅彦委員長

それでは、答弁をお願いいたします。

川口部参事。

○川口保健福祉部参事

それでは、私からは、モデル地域を目指すということで、どのような方向性で目指していくのかというご質問にお答えいたします。

まず、循環器病の疾患と申しますと、やはり生活習慣病ということが大変大きくかかわっているかと思えます。生活習慣病については、日々の生活ですので、そう簡単には生活習慣を変えるということは難しいと思っております。移転後になりますけれども、コホート研究や循環器病疾患の発症及び重症化予防の研究等、国立循環器病研究センターの先生方が予定されているように聞いております。

そういった研究に協働といいますか、一緒に取り組ませていただくことで、課題も見えてこようかと思えます。日々の生活習慣が、どのような病気につながっていくのかということをフィードバックしていただきながら、その対策をいち早く実践していくということを、モデル地域として取り組んでいきたいと思っております。

先日、STOP-MIキャンペーンで、心臓内科の先生が話されていたのですが、病院は、患者が来てから初めて治療にかかると。その治療を行う中で、もっと早くにこうしておられたらと思うことが多々あるとのことでした。

そのような先生方の考え、このような思いを連携の中で私どもが伝え聞きまして、地域の方々に予防の方法等の情報、最先端の国立循環器病研究センターの先生ならではの情報もあろうかと思っておりますので、そのあたりは十分連携を図りまして、市民の皆さんに還元をしていけたらと考えております。以上です。

○藤浦雅彦委員長
大橋次長。

○大橋市長公室次長

そうしましたら、ご答弁申し上げます。

やはり一番の課題といたしますか、ポイントといたしましては、どういった企業が健都のイノベーションパークのうちの6,000平米の土地を検討をされてるかというところを、いかにつかむかということなんですけれども、それに加えて、今度は、やはり先ほども申し上げたんですけれども、国立循環器病研究センターと国立健康・栄養研究所との連携・協働ですね、この部分をどのような形で連携・協働を図ろうとしているのか図る考えがあるのか、そういうところの見きわめ、それが延いては、産業、それと市民の健康の部分での寄与、どの程度の寄与があるのかということ、企業側としては、やはりそれは、あそこの進出については前提にやっておりますので、ある程度のお考えというか、文書なり言葉というようなものは当然、用意はされてる部分があると思うんですけど、それが、どこまでのものかということを見きわめて、決定するというのが非常になかなか容易ではないというふうには思っておりますけれども、そのところについても、先ほど申し上げましたように、できるだけそういうような形で実現できるように取り組んでまいりたいというふうには思っております。以上でございます。

○藤浦雅彦委員長
松本委員。

○松本暁彦委員

それでは、引き続き質問をさせていただきます。

まず、先進モデル地域を目指すということで、今の取り組みを踏まえて、しっかりとやっていくということについては認識をしました。

そこで、健都のまちづくり自体は、やはり国立循環器病研究センターと合わせて、隣の吹田市との連携というのも必要になるかと思っております。

というのは、例えば、健都の地域には、明和池公園もございます。その反対側、岸辺のほうには、吹田市が健康増進公園というのもつくられております。そういった両市が健康づくりという観点で連携をしていく、健都のまちづくりをしていくということだと思いますが、平成29年度の両市の健康づくりの取り組みと、その方向性、今後何かさらなる健康づくりについて検討しているのか、それについてお聞かせください。

続きまして、健都イノベーションパーク企業立地推進事業につきましては、見きわめが非常に大事であるということについては理解をいたしました。やはり、先ほど言われましたように、国立循環器病研究センターと国立健康・栄養研究所の意向、そのアウトプットとして、健康寿命の延伸につながる企業がふさわしいということについては理解をいたしました。

やはり今後、しっかりと国立健康・栄養研究所、あるいは国立循環器病研究センターとの連携を密にして、具体的にどのような企業が必要なのかというのは、こちらからもどんどんプッシュアップしていくということで、やはり企業誘致をより早め、本市にとってふさわしい企業を誘致するために、非常に大事かと思えます。

それを踏まえて、今後、イノベーションパークの企業誘致の中で、より工夫をしていくというようなことは何か考えているのかお聞かせください。以上です。

○藤浦雅彦委員長

答弁求めます。

川口部参事。

○川口保健福祉部参事

では、吹田市との連携した取り組みということでございます。

現在吹田市と一緒に取り組んでいる事業につきましては、合同でのウォーキングがございます。健都を知ろうということで、健都エリアのウォーキングについて、合同で両市が企画から練りながら、実施をしております。

また、その他、コホート研究がございます。これは準備会議の段階ですけれども、やはり健都エリアということで、一緒に取り組んでいく方向性でございます。

また、もう一点、国立健康・栄養研究所との連携につきましては、現時点ではモデル事業というお話も出ております。そういったものにつきましても、摂津市だけ、吹田市だけということではなく、両市でどのような形がいいかということについては協議をして取り組もうという方向性を持っているところです。

また、吹田市、摂津市も入り三師会、国立循環器病研究センター、吹田市民病院等が参加している会議、健康・医療のまちづくり会議ですけれども、その会議で具体的な内容につきましては、協議をしながら、同じ方向を向いて取り組んでまいりたいと考えております。

○藤浦雅彦委員長

大橋次長。

○大橋市長公室次長

そうしましたらご答弁申し上げます。

今後の取り組み的なことになるかなと思うんですけれども、本年度に入りまして、ある企業から接触といいますか、1社ほどそういうことがあったんですけども、そのときに、大手のゼネコンの営業が、コンサルタント的な立場についてもおられるということがわかりましたので、聞いておりますと、広くそういうケースがあるということもわかりましたので、大手だけではないんですけど、ゼネコンのほうに少し当たりをつけていこうかなというように考えております。

それとあと、平成28年度にピックアップをした健康・医療関係、また、ヘルスケア関係の企業が百数十社ほどございますので、そこについても改めて、少し接触をさせていただかなというふうに、今のところは考えております。以上でございます。

○藤浦雅彦委員長
松本委員。

○松本暁彦委員

それでは、引き続き質問をさせていただきます。

吹田市、国立健康・栄養研究所との連携を今後進めていくということについては理解をいたしました。

特に健康づくりという観点においては、健都のエリアでの吹田市、あるいは国立健康・栄養研究所として国立循環器病研究センターとの連携ということが非常に大切であると認識をしております。なおかつ、以前、副市長も言われていましたように、健都のまちづくりを通じて、市のほうに内容を波及をして、市の健康づくりを活性化していくということが非常に大事であるというところを理解をしています。

それを踏まえて、今の計画段階で結構ですけれども、平成29年度のこの取り組みを通じて、健都のまちづくりの成果というものをどのように摂津市全体へ波及させていこうとお考えかお聞かせください。

そして、健都イノベーションパーク企業立地推進事業については理解をしました。ことしの秋に市立吹田市民病院が開院をして、商業施設もできてくると。インフラがどんどん整っていく中で、期待というものが高まって、なおかつ、具体的に形となってくると、やはり企業方も一層の興味を持つのかなと考えております。恐らく今後、このイノベーションパークの確認をしたいという企業の要望が出てくると私は予想しております。その中で、先ほどの答弁で言われた、市にとってふさわしいものをしっかりと選定をして、なおかつ積極的にやっていっていただきたいと思っております。これについては要望とさせていただきます。以上です。

○藤浦雅彦委員長
川口部参事。

○川口保健福祉部参事

それでは、私から答弁させていただきます。

市全体への波及をどのように考えているかというご質問でございます。まず、健都につきましては、健都はエリアということで、そこに目に見える形であるわけですが、やはり国立循環器病研究センターとの連携、あるいは国立健康・栄養研究所との連携等、そのエリアで蓄積されたことを広く市民に還元することが最も大事だと私どもも思っております。

先ほど少しお話をさせていただきましたように、国立循環器病研究センターは予防医療にも取り組んでおられます。

そのあたりは、とても大事なことだと思っておりますので、健康教室をはじめ市民を対象にした事業施策を打っていくわけですが、そこで得た知識、やり方を一つ一つの事業に命を入れてといいますか、そのような視点を入れて、広く市民に還元ができればと考えております。あくまでも予防医療ということで、予防という視点を大事に施策展開をしていけたらと考えます。

○藤浦雅彦委員長

松本委員。

○松本暁彦委員

しっかりと市のほうに今後、予防医療等の観点で波及をしていくということについては理解をいたしました。ぜひしっかりとやっていただきたいと思えます。

それで、先ほど言いました健都には三つの意義があるというところです。最後、全国発信というところの観点ですけれども、各関係機関と連携・協力し、健都の魅力、摂津市全体の魅力の向上による全国的認知度の向上を図るとおっしゃられております。それを踏まえて、平成29年度についてはどのような取り組みをされたのかというところ、これは恐らくポータルサイトも含めてでありますけれども、総括的にどのようにされたのかお聞かせください。

○藤浦雅彦委員長

答弁大丈夫ですか。

有場課長。

○有場保健福祉課長

それでは、私のほうからお答えいたします。

全国発信ということですが、このポータルサイトにおきましても、直近では30万ヒットということで、訪れる方につきましても、吹田市、摂津市は多いんですけども、それ以外にも全国や海外からも訪れる方がいらっしゃるというような状況でございます。

このポータルサイトをどう生かすかというところでの取り組みとしては、市のホームページと相互にリンクを張って、市のホームページを訪れていただくとか、あるいは、市のホームページのほうからポータルサイトのほうに情報を閲覧できるような状態にしておりますので、市民にそういうことを知っていただくというような取り組みをさせていただいてます。

それ以外に、今後、全国に発信していくということにつきましては、来月以降、具体的に商業施設とかオープンするわけですが、現時点では、ハード面が中心であったというところございまして、今後はソフト面に移行していくというところで、具体的

な連携事業が形づくられてくると思いますので、本市が先進的な取り組みを行うというところでの情報発信ということで考えていきたいと思っております。以上です。

○藤浦雅彦委員長
松本委員。

○松本暁彦委員

引き続き質問させていただきます。

全国発信については、今後はソフト面の情報発信についても具体的に整えて、これからはしっかりと取り組んでいくと、その媒体の活用をしっかりと考えていくということと認識をいたしました。

それで、改めて、本市の方向としては、先ほども言いましたけども、健都を中心に、健康づくりと医療イノベーションの好循環の創出による健康寿命の延伸をリードするまちづくりというところで、改めてオール摂津として、平成29年度の分析も踏まえ、今後どのようにしていくのか、総括的にどうお考えかお聞かせください。

○藤浦雅彦委員長
平井理事。

○平井保健福祉部理事

健都の取り組みを総括的にどのように今後していくかということにつきまして答弁させていただきます。

健都のまちづくりにつきましては、本市だけではなく、なかなか全国的に珍しい行政機関が複数関与し、また専門的な高度の先進医療機関、あるいは、我が国唯一の健康や栄養の専門機関である国立健康・栄養研究所、こういった非常に高度かつ先進的な取り組みがすごく期待されているというふうに我々、認識しております。

こうした取り組みというのは、当然、我々地元だけではなくて、やっぱり全国に発信していくことによって、我が国全体の健康寿命の延伸ということにもつながるかと思っておりますので、その辺をちょっと意識して、我々も今後、関係機関と十分連携した上で、具体的な取り組みも踏まえまして、進めていけたらなというふうに考えておりますので、またご支援のほどよろしく願いいたします。

○藤浦雅彦委員長
松本委員。

○松本暁彦委員

ありがとうございます。しっかりとオール摂津として進めていくというところで、認識をいたしました。しっかりとオール摂津でやっていただきたいと思っております。

これ以降は要望とさせていただきます。まさに、一つ一つの非常に小さな積み重ね、そして、三つの意義の連携をすることによって、初めて健康寿命延伸のまちづくりが達成するところを認識をしております。

そんな中で、私どももこれまでの委員会や一般質問でいろいろと要望させていただいております。

例えば、PR冊子について、しっかりと健都の内容を含めて、市外向けにやっていただきたいというところは要望させていただいております。オール摂津としても、そこについてどのような内容を含ませるのか、時期的に言えば、イノベーションパークの企業誘致もごさいます。その内容をどういう形でPR冊子に含めるのかということもしっかりと検討していただきたいと思っております。

また、健康・医療のまちづくりの魅力向上というところで、私は、本市のさまざまな健康施策というのが結果として、健都のまちづくりの健康寿命の延伸のほうにつながっていくと考えております。

そういうところで、先日、決算委員会で要望させていただきましたけども、建設部との健康用器具の設置については、一つ一つだけではあまり効果がないように思いますが、この点と点が線でつながれば、大きな効果が得られる、例えば、ウォーキングコースとそれぞれのコースに健康器具を設置することによって、メタボ対策ウォーキングコース、あるいはロコモ対策ウォーキングコースといった設定ができ、非常に大きな効果が生まれると。なおかつ、そこに例えば、大阪人間科学大学とかの専門的知識も含むことができれば、一層の効果が上がると、そういった小さな健康づくりから健康寿命の延伸ということを目指しているというところで、一つ、二つ、工夫を加えて、それぞれにしっかりと意義を設けて連携をしてやっていただきたい。そういった中では、オール摂津の姿勢で積極的にやっていただきたいと考えております。

当然ながら、そこに予算というものがごさいますので、そういったバランスも踏まえて何ができるのか工夫をして、よりよい形で健康づくりのほうに進めていくことができるように、そして、その結果として、健康・医療のまちづくりとしての魅力アップのPRにつながれば、イノベーションパークの企業誘致へも非常に大きな後押しになっていくかと思っております。そういったものを含めて、しっかりと有機的に連携をさせていただくことを私としては要望させていただきます。以上です。ありがとうございました。

以下略